

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	“結婚紹介所”（笑劇）
Author(s)	田邊， 猛
Citation	龍南， 2 0 9： 4 6 - 5 4
Issue date	1929-02-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/9060">http://hdl.handle.net/2298/9060</a>
Right	

# 結婚紹介所 (笑劇)

田邊 猛

人物

結婚紹介所書記

同 妻

紳 士

洋 装 の 女

給 仕

紹介所の内部、上手に隣室に通ずる扉あり中央部には書記の机、多くの書類等積重ねてある、下手には扉ありて當所の門に至るもので客は多くこれによつて出入す、美人畫多く貼附さる、舞臺下手に「結婚紹介所」なる五文字を浮き出す。一体にアパートの事務室なる態なり。

(幕開くと書記しきりに書類に書きこんでゐる次の獨白中時々煙草を喫す)

書記 えゝ年は二十四五才眼大きく全く西洋人見たいだな何！髪は黄金色にして斷髪、どうも近頃の若い奴は流行を追ふていかな、私等の若い時はうふゝん俺の妻はあの頃は奇麗だった。

(給仕扉を開いて入る)

給仕 お客様ですが

書記 足細く身体均整にして、うるさい女だな (不意に振向いて) お客様だつて女か男か

給仕 紳士の方で

書記 いかん／＼近頃見たいに女性の産出が少くては、男のあぶれ者が多くては、通すんだ可憐にな

給仕 (扉を閉めて出てゆく)

書記 趣味はダンス、何だ馬鹿にしてる、おつと給仕奴お客だと云つたな。(給仕入り来る)

給仕 次の室に待たしてあります、

書記 一寸豫行だが職業は?

給仕 人を見下す様な風が常にありますが職業は何とも判断しかねます

書記 さうか年は?

給仕 廿五六才

書記 亡者の世迷言聞かう、通せ。(給仕去る)

書記 支配人が留守なのでこの俺に紹介の方も脊負はせてしまつて亡者共に一々引導渡してやらなけりやいけないとは

(給仕紳士をともしひ入り来る)

紳士 君が支配人かね (給仕去る)

書記 はッ只今支配人は不在で僕が代理を……

紳士 あはは、代理か、代理じや好い女も探せまい。

書記 (むつとして) 貴方に相當した女なら此處の給仕でも結構探せます。

紳士 あゝさうか、どんな女でも構はない男なら給仕にお禮をするだらう。

書記 (益々心に怒つて) 御希望條件は?

紳士 まづ僕と云ふものの正体から考へて見ると僕は小さきながらも藝術の追分に美を求めつゝ立つてゐるのだ。杖であるべき

結婚紹介所

ペンと情熱を語らひ、瞑想を共にするのだが單に、君等見たいに機械的に鑄びたペンを振廻して男女の名を書き連ねるのは異つて僕のペンは……

書記 ペンの講義は此處では眞平です。後がつかへてゐるんですから早くお願ひします。

紳士 いや話は系統立てゝ云ふべきだ君等見たいに結論に直ぐ走る様な實務的では決して人世等に美を感ずると云ふ様な……

書記 給仕！

紳士 君は今給仕と呼んだね。而も全く職業意識を忘れて私的な感情で本來の目的を失はうとしてゐるね。

書記 貴方に此處から出てもらつて次の希望者の話を聞かねばなりません。（給仕入る）

給仕 何か御用で。

書記 この方を連れ出すんだ。

紳士 いや僕は斷じて行かない!!

給仕 お客様どうぞこちらへ。

書記 當紹介所は一人五分間の面談です。貴方の話は七分を經過してゐます。又出直して下さい。

紳士 よし次の客が終るまで隣の室に居よう。

書記 勝手になさい（紳士隣室へ去る）ちえッ馬鹿奴！お次は？

給仕 御婦人です。

書記 （喜んで）櫻が一時に咲いたか特に丁寧にな。

給仕 豫行は？

書記 （鏡をのぞいてネクタイを正しく爲し）必要なし。（給仕去る）

書記 婦人ならば俺の腕も磨きが充分だ、

(給仕洋装の女を連れ来る)

書記 (ちろ／＼、見つめて) ようこそ(椅子を進める) (給仕去る)

洋装の女 お初にお目にかゝります。

書記 御用事はやはり結婚の事に關してですかそれとも個人的な……

洋装の女 (媚を含めて) まあ露骨な方、とても望はないんですけれど、もし私の様な……

書記 私等はお客様の御希望だけ述べて下されば結構です。なるべくそれに添ふ様なお方を見出しますのですから

洋装の女 實は私……此度外國から歸つて來たのですが亡父の財産整理に關して女一人ではどうとも致すことは出来ません、それでお分りでせう。

書記 男の手が是非必要ですね、登記や何やで。

洋装の女 父は巨萬の富を私に遺してくれましたが結婚の事については父の存世中許嫁と云ふ關係の男があつたのですが私の洋行中行方不明となつてその生死さへもわからなくなつて了つたのです。

書記 成程(羨し相に女を見る)

洋装の女 ところが私に子供が一人ゐますの

書記 えッどうして、

洋装の女 その男とは夫婦と同じ様な境遇でしたから。

書記 ふん成程當然の結果ですね。

洋装の女 その遺産を相續するに際して叔父が不服を云ひ結婚するまでは自由にさせないつて。

書記 で何用あつて?

洋装の女 此處に來たのは私の以前の夫を探して貰ひたいのです。

書記 見つからなければ。

洋装の女 そんなに不確かな所なんですか。まあそんなことはどうでもいいとして、では他に學識の相當にある男でもあつたらならば何とかして……

書記 そしてその遺産は？

洋装の女 皆夫に渡します……先刻も云ふ通り夫は死んだらしいのです他に誰か

書記 文學者があるんですが、全く貴女には釣合はぬ様な冷酷な男ですから

洋装の女 でも文學者にも淑やかな紳士の方も見受けられますが

書記 たまにはですね、而し堅實味と云ふ點から見ても職業的關係から云つてもあんな奴は駄目です。

洋装の女 (少し書記の態度に氣ついて) 毎日一組の男女を喜ばして側で羨し相に見てゐる男の方等は最も堅實ね。

書記 少くとも文學者なんかよりはね。

洋装の女 さあどちらだか、女はそんな男を愛する氣になれるかしら。

書記 男は新しい女を好むものです。

洋装の女 そしてお河童さんでお金の多い女をね。

書記 何ですつて！全く聖ジョウンの卵の對話だ、穿つてゐる、僕は始めて女との交渉だがジョウンの奇蹟に結婚の卵を産みさうだぞ、

洋装の女 結婚の卵を産むつて貴女はまだ人のために自分のお鉢を忘れてゐるの

書記 (獨白的) 飛んだ犠牲さ——以前は愛を相交線の一瞬間の交はりと思つて必らず分岐を豫言してゐる線にのり入ることは

僕には斷じて出来なかつたのさ。女は偶像だつた、觀賞物だつた、人間を客觀的に觀めつゝ大きな歡喜にひたつてゐたと云ふ平凡な生活でした、だが今になつてその空虚さをつくづく感じてきたのです。結婚に對する大きな望が僕の生活にひた

く」と押し寄せるのを感じる様になりました。

洋装の女 まあ貴方は現在までその様な思想を抱いてゐたの、キリスト見たいに絶へず他の人の爲つの幸福を見出して自分を忘れてゐる……馬鹿々々しくはなくつて。

書記 その頃の僕は全く木偶の棒だつた、僕は冷淡な眼を男や女に向けてゐました、女は男により男は女により生活の微笑を受け様とあせてゐるのであるし、その間に何等の感覺的な點を介在させませんでした。こんな事から僕の生活は孤獨と云ふものに眞實の微笑を見出さうとあせつたのです。でも今となつては破綻です（自分の心にもないことを巧に云つてゐるのを少し感心して又女が熱心に聞いてゐるのを益々誇つて）結婚は愛の一人と一人の結合ではあると思ひます。結婚の前には多くの男女が單に人間として生きてゐるものであると思ひます、これらが結婚による愛の瞬間を永續させるだけ一人と一人の結合を純ならしめるものでそれ以外は全く何かの考へに支配されるものです。

洋装の女 貴方の云ふことは私にはわかりません。でも貴方は立派な思想を持つてゐられる様に思はれます。

書記（女が自分に次第に引きつけられてくるのを見て心でうなづき）で要するに戀は眞實の愛ではなくてたゞ結婚によりてのみ大きな愛は生ずるものであります。例へば戀による相手がゐたとしてもその人に而もその人は生死の判明しないのに自分の一切を捧げると云ふ様な……

洋装の女（急に自分にかへつて）まあ貴方の理論は何と云ふ結論になるのでせう。私はどんな事があつても自分の戀人の姿をまでも泥にしたくはありません。

書記 えッ！そうです、無論さうであるかも知れませんが。（こいつは失敗つたと思つて）でも女は妙な所に宗教的な頑固さを持つ様です、思想的に立派だし生活にもゆとりのあるものを……

洋装の女 一寸！その生活と云ふことは私には問題外です。

書記（少からず狼狽して）あッ！貴女には遺産がありましたね、

洋装の女 オホ、それを忘れてよくお芝居が出来ますのね、もう大抵で幕を閉めなきあ樂屋まで見すかされちや此處の信用にもかゝりはしなくつて、

書記 えッ！何ですつて、

洋装の女 オホ、貴方は旨い役者でしたわ、お花を上げませうね、おや何を驚いてるの結婚の臺詞の旨いの私全く欺されちまつたわ。どうせ結婚紹介所の代理支配人様だもの。で結婚私、夫を持たねばなりません。

書記 (意味を解しかれて) 夫と云ふとつまりその……

洋装の女 おわかりにならないの貴方は獨身ですから私の子供の面倒を見て下すつたら貴方は美はしい外國歸りの娘と大きな金の鋤で金脈を掘りかへして鎊を落しさへすればいいのです。

書記 僕に、では貴方は僕の妻に……

給仕 (戸を開いて入り来る) あの奥様がお見へになりました。

書記 (失敗つたと思つて給仕を睨みつける女は不審相に顔を書記と見合はせる) 誰の奥様だ三論さんか保條の奥様か、(飛んだ語を云ふなと目顔で合圖す)

給仕 (室内の空氣の變なのに驚いて) 實は……(書記の妻入り来る給仕振かへつて) これは飛んだ所へ(給仕外へ出る)

書記 ちえッ！(獨白的に) 變な所で芝居の大結を混ぜやがる、(急に改つて) やあこれは三論の奥様ですね、今日はお客様があるのではらくあの……

妻 まあ貴方！どうして……

書記 (さえぎつて) 實は近頃首も廻らない位急がしいので今日もこの御婦人の結婚問題について、

妻 貴方どうしたのですか子供がとても惡ひので醫者も……

書記 (全く自分を忘れて) 何子供が……(急に前の状態に戻つて洋装の女の方を氣附かれなかつたかちらりと見て) しばらく(妻を扉の



方へ押しやりながら）直に行くからしばらくはづして下さい

妻　でもく

書記　（遂遂妻を扉の外に押しやつて）三論の奥様直に参ります、三論君に宜しく（扉を閉める）

洋装の女　（獨白的に）ノン窓が云はせる離縁狀つてか（皮肉に）貴方三論さんと仰言るの

書記　冗談ではありません。あれは友人の妻です。飛んだ御邪魔だつた。

洋装の女　私は貴方のお芝居が余りにも見えすいてゐますが、でもく何故かしら、さう、私はやつぱり女ですわ、平凡なつまらない女である他何でもないのです。私は下手な演技に安價な涙を落す様なものじやないつもりです。だが私はその下手な芝居をやつてゐる貴方にその貴方に心が引かれる様な氣がするのです。

書記　えッ！えッ！（書記本を抱かんとす）

（紳士左手に時計を握り隣室より出る）

紳士　おい君代理の支配人さん、女には時間の安賣かね。ふん三十五分立つたぞ（観客席を見て）それ大きな欠伸を噛み殺してゐる僕をどうしてくれるんだ！！

書記　大きなお折介でさ、君は僕の戀人の前で何を云ふのか、僕は紹介所の書記なんて縁切りさ、君等みたいな紙屑屋には又金鑛が羽生やして逃げ出す様な錆ペン屋には大きな口もきけないものよ。

紳士　何！君がこの女と……フン書記のくせに。

書記　ショウつて男は旨い奴さ、姪婦を聖女にまで祭り上げるんだから。而も旨く奇蹟でな代物に絹着せて奇麗に仕立てゝゐるのだから、その奇蹟は美事に僕のものさ。

紳士　奇蹟だなんて（女の方をよく見て驚く）おやー貴女は山路千代子さんじやないか

洋装の女　えッ！おゝ貴方は野村星冷さん。まあどうして貴方は？

結婚紹介所

書記 僕の妻に君は何を云ふのだ、而も夫の眼前に於いて堂々と名乗りを上げるなんて。

紳士 奇蹟だ！貴女と會はうとは思ひもよらかつた。つまらない意地から家を出た僕だつたが、あゝ而し何と云つても奇蹟だ！

洋装の女 野村さん私本當にすみません。父の爲に子供の爲に一切の忘却へと旅立つた私だつたのですけど、やつぱり人間は人間に引かれます。妙な偏屈な人間道程の一つの道化に過ぎないのです。

紳士 道化が余り道化過ぎました、ですがお父さんがお亡くなりになつたさうですね。

洋装の女 父は頑固で死ぬまで貴女との結婚を許してくれませんでした。それに貴方の消息がわからないので父の遺志を繼いで他の人と結婚しようと思つて、

紳士 此處へ來たんですね。而し余りに暢氣な浮氣じやありませんか。

洋装の女 私はこんな男は大嫌ひです、自分に妻はありながら金のある女をねらふためにどんな芝居でもやつて見せるのです、

お客は同情半分程のいゝことを云ふと直に眞に受けて宇頂天になつて了ふのです。

書記 えッ！飛んだ策略の脱線だ。

紳士 ふんこの男は始から變な男だと思つてゐた、大きな看板をかゝげながら小刀細工を毎日やつてゐる。

洋装の女 でもこの人は私等二人の婚結を紹介してくれたことになるわ。

書記 へん又元の默阿彌か

紳士 あはゝゝ君は立派な

洋装の女（書記に向て）貴方は性の良い正直な結婚紹介所の大だわ（紳士と女とは寄り添ふ）

紳士 素晴らしい華かさだ唇の誓は破れることはない（紳士と女は接吻す）

書記 あッ！失敗つた！子供が死にかゝつてゐると云つたな、えゝい随分と暇どらせて（書記二人を睨めつけながら帽子と杖を取

つてあたふたと出かける）——幕——